

総合計画体系	政策No. 2	政策名	ともに生き支えあいまちの形成	施策主管課	保健福祉部 介護福祉課
	施策No. 9	施策名	高齢者福祉の充実	施策主管課長名	長澤 廣秋
施策関連課名		国保年金課			

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 市内高齢者	③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない 名称 単位 A 65歳以上の人口 人 B C
② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか) 心身共に健康な状態で暮らしていける。また認知症や心身機能の低下により介護が必要になっても住み慣れた地域で、尊厳を保ち出来る限り自立した生活を送ることができる。	④ まちづくり指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない 名称 単位 A 健康だと思う高齢者の割合 % B 地域の人に支えられて暮らしていると感じる高齢者の割合 % C 老後も安心して暮らせると思う市民の割合 % D 介護予防サポートリーダー数 人 E
・まちづくり指標設定の考え方(理由、数式も) ・まちづくり指標の測定規格(手段はアンケートか、統計か)	A: 高齢者の介護予防の効果を示す。【高齢者生活実態調査(65歳以上の一般対象)の「あなたの現在の健康状態はいかがですか?」において、「良い」「まあまあ良い」と回答した人の割合】 B: 地域生活に対する高齢者の安心感を示す。【高齢者生活実態調査(65歳以上の認定者を対象)の「あなたは地域の方と支えあって暮らしていると思いますか?」において、「思う」「やや思う」と回答した人の割合】 C: 高齢者福祉に関する市民の安心感を示す。【市民アンケートの「南アルプス市は、老後も安心して暮らせると思いますか?」において、「思う」「まあまあ思う」と回答した人の割合】 D: 地域での介護予防の充実度を示す。【市が開催する介護予防サポートリーダー養成講習を終了し、介護予防サポートリーダーとして登録された人数】

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象指標	A 人	見込み値	16,761	17,323	17,933	18,273	18,613	18,971	19,392
		実績値	17,041	17,616	18,083				
	B	見込み値							
		実績値							
	C	見込み値							
		実績値							
まちづくり指標	A %	目標値	未設定	未設定	46.1	47.5	47.5	47.5	49.0
		実績値	46.1	46.1	46.1				
	B %	目標値	未設定	未設定	59.1	60.5	60.5	60.5	62.0
		実績値	59.1	59.1	59.1				
	C %	目標値	38.8	40.0	37.2	37.9	38.6	39.3	40.0
		実績値	32.7	36.7	36.8	41.2			
	D 人	目標値	未設定	未設定	210	220	230	240	250
		実績値	206	217	243				
	E	目標値							
		実績値							
関連事業本数			39	36	32	27			
関連事業予算額(単位:千円)			1,736,643	1,743,251	1,036,445	1,049,174	0	0	0
(予算額の内訳)	国庫支出金		354	597	5,044	5,130			
	県支出金		113,437	106,737	7,664	7,353			
	地方債		0	0	0	0			
	その他		75,832	69,391	58,001	55,473			
	一般財源		1,547,020	1,566,526	965,736	981,218			

目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)

A: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定  
B: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定  
C: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定  
D: 地域での介護予防を推進し、5年間で50人(年間10人)の登録者増を目指し目標設定

### 3 評価結果

#### 施策の有効性評価

##### ① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）

- 目標値より高い実績値だった  
 目標値どおりの実績値だった  
 目標値より低い実績値だった

##### ※左記の理由

高齢者人口は予測値よりも150人増加し、4月1日現在の高齢化率は25.01%で人口の4分の1を超えた。3年毎のアンケートでは、46.1%の人が健康だと思っている。市民アンケートの「老後も安心して暮らせるか」については前年度より4.4ポイント増加した。また介護予防の推進役としての介護予防サポートリーダーの数は目標値を上回った。

##### ② 時系列比較（過去5ヶ年の比較）

- 成果がかなり向上した  
 成果がどちらかと言えば向上した  
 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）  
 成果がどちらかと言えば低下した  
 成果がかなり低下した

##### ※左記の理由

介護支援が必要な人たちが「地域の人たちに支えられて暮らしていると思う」割合が約60%で、地域の支え合いの基盤があると感じる。高齢者生活実態調査においては横ばいの状況である。介護予防サポートリーダーの養成を毎年おこなっているため、少しずつではあるが増えてきている。今後は活躍の場を確保していく。

##### ③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である  
 どちらかと言えば高い成果水準である  
 ほぼ同水準である  
 どちらかと言えば低い成果水準である  
 かなり低い成果水準である

##### ※左記の理由

65歳以上であっても人間ドック健診等を希望する人も多くあり、個人で介護予防に向けて自助努力している。他市においても介護予防の事業は制度の中で取り入れている。27年度からは他の市町村に先がけて総合事業に取り組んでいる。また介護予防サポートリーダーの養成は16年度から事業をおこなっている。今後の活用が課題となっている。

##### ④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である  
 どちらかと言えば高い成果水準である  
 ほぼ同水準である  
 どちらかと言えば低い成果水準である  
 かなり低い成果水準である

##### ※左記の理由

高齢者生活実態調査において、地域の人たちに支えられて暮らしていると回答した人たちは実際に介護支援が必要の人と考えられる。今後は支えられる側と支える側が共に地域づくりをしていくことが必要になる。市民アンケートの結果「老後も安心して暮らせると思う」41.2%であった。同水準とはいえない。

### 4 まとめ

#### 施策の課題抽出とその課題解決（成果向上）の方向性と具体的な取組内容

施策の課題抽出	課題解決の方向性	具体的な課題解決・改善内容
高齢化の伸展に伴い認知症高齢者の増加が見込まれる。	認知症になっても認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるよう認知症高齢者等にやさしい地域をつくるため高齢者いきいきプラン及び新オレンジプランを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症への正しい理解を深めるため認知症サポーター養成講座を小中学校や地域住民、企業を対象に実施する。</li> <li>認知症地域支援推進員を配置し、認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供体制や地域全体の認知症の人を支えるネットワークを構築する。</li> <li>認知症初期集中支援チームによる早期診断・早期対応に向けた支援体制の充実を図る。</li> <li>認知症の人やその家族、地域住民の支え合いの場として「認知症カフェ」を開設していく。</li> </ul>
単身、老老世帯の増加に伴い生活支援を必要とする高齢者や世帯が増加する。	高齢者の在宅生活を支える為に多様な重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援の協議体を設置して地域の資源把握や開発、ネットワークづくりを行う。</li> <li>本年度から開始した「介護支援ボランティア・ポイント制度」を活用する。</li> <li>元気な高齢者が地域のサービスとして活動できる場の確保と人材の育成をする。</li> </ul>